

「イクメン」みんなで応援する社会へ

「イクメン」という言葉は、ここ数年で浸透し、赤ちゃんを抱っこして、パパだけの買い物姿も珍しくないこのごろです。「イクメン」とは、単純に「子育て中の男性」というよりは、子育てを楽しみ、自らも成長をする男性を指します。

そして、孫の世話や遊び相手をするだけでなく、人生経験やキャリアを活かした「イクジイ」や、イクメンが育児等をきっかけに地域に関わる「イクメン」も増えています。このように、近年、育児の関わりや地域とのつながりに積極的な男性が増え、その意識は変わりつつあるようです。

男性の育児休業取得率は、長期的には上昇傾向ですが、現状では5.14%（厚生労働省「平成29年度雇用均等基本調査」）と、少ない状況です。

子育てに積極的に関わりたいと考える男性の中には、育児休業等の制度を活用しにくい雰囲気があると感じている人もいます。育児休業を活用されたパパのお話によると、応援してくれる仲間を増やした上で、「解雇」覚悟で上司に相談し、何とか取得されたとのことでした。

予測不能な行動をとる子どもと向き合うことは許容力・段取り力等の向上につながり、イクメンが増えることは企業にとって良い影響力を与えると言われています。仕事と育児を両立しやすい環境整備に努める理解ある上司のことを『イクボス』と呼びますが、イクメンには、必要不可欠な存在です。

男女が共に活躍できる社会のためには、「イクメン」の頑張りだけではなく、職場や地域でそれを支える「イクメンサポーター」を増やしていくことも大切ではないでしょうか。私もその一人として、これからも応援していきたいと思っています。

※このコラムは、市と協働している男女平等推進事業企画・運営協力員が、日々の生活の中で感じている「男女平等」について執筆しています。

（次回は2月号に掲載します。）

